

薬学教育が6年制に移行し、初めての薬剤師国家試験(97回)が平成24年3月3、4日の両日に実施され、次の薬剤師国家試験(98回)が平成25年3月2、3日に実施されることが発表されました。試験日が発表された以上、その対策は早めに始めた方が圧倒的に有利!まだの方は今日からでも対策を始めましょう。今回は前回に引き続き「出題領域別のポイント」として、「衛生・薬理・薬剤」の出題傾向を探ります。

勉強の指針 衛生

「衛生」は大きく「健康」と「環境」に分かれていますので、それぞれのポイントを明確にして勉強していきましょう。「健康」は食品衛生、公衆衛生、疾病の予防などが含まれますので、化学や生物などの科目の知識が基本になります。「環境」は化学物質の毒性、環境衛生などが含まれますので、化学・機能形態学・薬物動態学・薬理学などと関連づけると実践問題対策につながります。

97回では4年制国家試験の傾向を継承し、全体的に満遍なく出題された印象があります。農薬の構造、一日許容摂取量の計算などが出題の可能性の高い項目です。現在、わが国で問題となっている動物性脂肪の摂取量増加やそれに伴う動脈硬化、ノロウイルスやカンピロバクターによる食中毒、急速な少子高齢化、インフルエンザや麻しんなどの感染症、輸入食品における残留農薬、覚せい剤や大麻などの乱用薬物、地球温暖化やヒートアイランド現象、水道水中の有害物質などに関連した項目を勉強しておくとい良いでしょう。

勉強の指針 薬理

「薬理」は、薬理作用や作用機序に関する問題を中心として出題されます。

薬理学による薬物と生体との相互作用の解析には、機能形態学、生化学、分子生物学、遺伝学、感染症と生体防御などの基本的知識が必要なので、先行して再復習を行

っておくとよいでしょう。

勉強の流れとして、薬物の作用機序から、常に薬理作用、副作用、相互作用へと発展させる考えを習慣として身につけることが大切です。

全体的な勉強方法としては、97回の印象を含めて、4年制国家試験の既出問題を学習することは、知識の定着に絶対有効です。

各分野において、薬物の作用点は、受容体の原理、代表的な細胞内情報伝達系とその活性化による生理反応を習得することが大切です。また、神経系では特に自律神経系を中心に各疾患へ応用させ、代謝系や臓器系においては、「薬理」単体で勉強するのではなく、生物、病態・薬物治療、実務などと並行して学習することでより深い知識とつながりが身につきます。この手法により薬学実践問題にも十分対応できるスキルが身に

総合的に見ると、今回取り上げた3つの領域は「4年制国家試験と傾向は大きく変わらず、既出問題を中心とした勉強法が有効である」と言えます。

「もの」と相対する職種から 「ひと」と相対する職種へ

6年制薬学教育が目指す薬剤師像は「患者本位の医療行為に携わる薬剤師」だと思います。

旧課程の薬学教育は薬剤師の姿として「化学を極めた薬剤師」を目標としていたのに対し、現在は「医療人としての薬剤師」を目標としています。各薬科大学からは、よりよい「医療人としての薬剤師」を育てようとする気質が今まで以上に強く感じられます。

つきます。

まとめると最初に勉強を始めるのは自律神経系、その後循環器、呼吸器系、消化器系へと広がっていくと学習効率が高いでしょう!

勉強の指針 薬剤

薬物の体内動態(薬物動態学)においては、生体で薬物が効果を示すプロセスに関する基礎的知識が問われてきます。まずは、投与部位の特性や薬物の吸収機構について習得し、次に、薬物の血漿タンパク結合と各組織への分布との関係や、薬物が体内で受ける化学的変化(代謝)について習得するのがよいでしょう。薬物の体内動態を解析するための動態パラメーターとして、分布容積、クリアランス、バイオアベイラビリティなどの概念を理解し、その測定技法について習得することが重要になります。医療の現場におけるTDM(治療薬物モニタリング)の実践に際して、血中薬物濃度測定法やその際の留意すべき点など

についても薬物ごとに確認しましょう。97回では計算問題は実践問題で多く出題されましたが、98回ではグラフを使った問題や計算問題は増える傾向にあると予測しています。

製剤(製剤学)においては、日本薬局方に関する通則・総則を問う問題が出題されます。製剤化された剤形の特徴を理解しましょう。固形医薬品の溶解性は、吸収などと密接な関係があるため、医薬品の溶解性に影響を与える溶解度と溶解速度についても理解する必要があります。界面張力などの界面の性質は、系全体(サスペンション、エマルションなど)の物性に大きな影響を与えます。

「薬剤」を通じて、個々の患者に投与される剤形を適切に選択し、薬物療法の適正化のために知識を活用できるように意識して勉強するとい良いでしょう。今後物理薬剤の割合は減少し、その分製剤の割合が増える傾向があると考えています。

ます。

薬剤師国家試験を通じて、6年制教育を受けた学生が薬剤師として必要とされる基本的知識のほか、薬学の全領域に及ぶ一般的な理論や、医療を中心とした実践の場において習得されている知識・技能・態度等を身につけられているか否かが問われているのだと思います。

6年制教育は現場での即戦力となるべき薬剤師を育てる土壌です。6年制教育は、患者本位の医療を展開する「医療人としての薬剤師」の歴史の幕開けであると確信しています。

受験生の皆さん、国家試験合格に向けて一緒に頑張りましょう。応援しています!



マツキョグループの調剤事業、さらに進化中。

急速な高齢化社会の進展を背景に増加する医療費を抑制するため、医療の一翼を担うドラッグストアの役割は、ますます重要視されています。このような社会環境の変化をとらえ、マツモトキヨシホールディングスでは、より高い専門性をもとに医療機関と連携した様々な医療分野への進出・調剤事業のさらなる拡大を目的とした調剤専門会社「マツモトキヨシファーマシーズ」を設立しました。私たちマツモトキヨシも、地域に密着した「かかりつけ薬局」として、マツモトキヨシファーマシーズとのシナジー創出を図り、今まで以上に調剤事業を強化していくことで、お客様・患者様により高いご満足を提供していきたいと考えています。

薬剤師
(新卒&中途)
募集中!

株式会社マツモトキヨシ

〒270-8521 千葉県松戸市新松戸 1-483

【応募者専用フリーダイヤル】0120-047-300

<http://www.r-matsukiyo.com/>